



### 数字は語る

**二一ト増加、不況など背景**

厚生労働省推計では、二一トを「知っている」人は一六・一ト(職業も学校も)に、九・九トにすぎないが、八六・八トは、仕事に就くための訓練も受けていない状態)が増えたと考え、九二・六トの若者が日本には五十二万が増加は問題だと思っいる。二一ト増加の原因を聞いたところ(複数回答)、「インターネット」(四一・二ト)、「不況等の経済状況」(三二・一ト)、「社会の変化」(二二・八ト)、「家庭」(一八・七ト)が上位を占めた。

四月から大半の国立大学で授業料が一万五千円値上げされる。文科省が授業料標準額を改定したためである。なせ今、値上げか。教育サービス向上の質を上げようという意図がそればかりと連う。値上げ相当分の大半が、国立大学に配分される運営費交付金から減額されるからである。今回の値上げは、国の費用負担を節約して、その分、学生に負担させるものにはならない。そもそも、授業料を含めて、高等教育に要する費用を、どう公私で分担すべきかに関して、根拠理論がない。大学教育への投資収益には、将来の所得上昇など学生自身が得る私的収益と、社会全体が享受する社会的

**まなび再考**

国立大の授業料上げ 根拠欠く学生負担拡大

収益がある。科学技術の発展や教育機会の拡充による平等社会の進展等がそれである。実際の計算はともかく、本来、社会的収益と私的収益の大きさに応じて、高等教育費用の公私負担は決定されるべき性質のものだ。行政の最大の意図は、私学の授業料との格差を正正にあるのか、単純に授業料格差のない状態が理想とはいえない。昨年発表の中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」は、これ以上の上家負担の増大は教育機会の点で問題と明言した。たかが一万五千円ではない。値上げの根拠理論がないばかりか、政策的整合性を欠く。(お茶の水女子大学教授 耳塚 寛明)



東京理科大学の澤田利夫・数学教育研究所長

東京理科大学の澤田利夫・数学教育研究所長は、学校での復習や演習の分量が極端に減少したことが「学力低下」の一因だと、一九八〇年代のカリキュラムに戻すことを提言する。

## 算数・数学 深刻な学力低下 復習・演習の減少極端

子どもたちの「数学嫌い」や「学力低下」が深刻な問題になっている。学力低下の原因の一つは、文科省が「ゆとり教育」の名のもと、一九八〇年代以降の学習指導要領の改訂で、算数・数学や国語など基礎教科の学習内容や授業時間を削減してきたことにあると考えている。

特に二〇〇二年に実施された学習指導要領では「学校での教育内容が過密だから、子どもが授業を理解できない」との理由で、「完全学校週五日制」「学習内容の大幅削減」「総合的な学習時間」を導入し、基礎教科の大幅削減に踏み切った。

これを算数・数学科でみると、小学校六年間の算数の総授業時間は八百六十九時間で、七〇年代より百七十八時間も少ない。これは現在の小学校算数科の一年分の時間数減は、学力低下だけでなく、

## 教育

表1：小学校の算数教科書のページ数

	1970年代	1980年代	2000年代
総ページ数	1,280 (100%)	1,120 (88%)	942 (74%)
復習、演習	142 (100%)	131 (92%)	52 (37%)
「分数」の扱い	74 (100%)	96 (130%)	61 (82%)
「九九」の扱い	26 (100%)	35 (135%)	33 (127%)

表2：中学校の数学教科書の配当時間数

	1970年代	1980年代	2000年代
指導時数	370 (100%)	307.5 (83%)	234 (63%)
問題演習時数	54 (100%)	22.5 (42%)	18 (33%)
「数と式」時数	158 (100%)	132 (84%)	110 (70%)
「図形」時数	147 (100%)	125 (85%)	91 (62%)

題演習や「分数」「九九」量は少ないが、「九九」は、教師用指導書にあるページ数を示した。カッコ内のパーセントは七〇年代を一〇〇としたときの割合である。

学習指導要領で、この間の算数の連当たり指導時間数をみると、七〇年代は一学年が三時間、二学年が四時間、三学年が

量は少ないが、「九九」は、教師用指導書にあるページ数を示した。カッコ内のパーセントは七〇年代を一〇〇としたときの割合である。

学習指導要領で、この間の算数の連当たり指導時間数をみると、七〇年代は

## 80年代の水準に回復を 次の指導要領改訂カギに

〇一九〇年代は一学年の指導時間は三時間、二、三学年は週四時間、現行は全学年週三時間と変化した。二〇〇二年は、小学校と同様に、算数科の問題演習の時間は、二、三学年は週四時間、現行は全学年週三時間と変化した。二〇〇二年は、小学校と同様に、算数科の問題演習の時間は、二、三学年は週四時間、現行は全学年週三時間と変化した。



設計図に合わせて切り出した石を敷き詰め、園路や花壇を配置して庭を造る。自分たちで花も栽培し、季節ごとに

色の取り合わせを考えて植える予定だ。「狭くてもリラックスできる空間を作るのが目標」。

（埼玉県行田市のテクノ・ホテル園芸専門学校）

**青春の道標**

同棲(どうせい)した彼女と結婚を決めたのは大学三年の時だった。親はもろもろ「まだ早い」と言った。当たり前である。後に息子が僕だっけと言った。でも、言うことを聞かないのもわかってた。僕だって聞かなかつたから。大体、家系的に言い出したら聞かないのである。

結婚を決めた僕は双方の親に話した。五十歩の断がいを飛び降りるほどの決意だった。が、親たちは「どうせ若いうちの迷いだから、そのうちさめるくらいに考えていたんじゃないかと思う。」

**30年後の離婚**

盛り上がっている恋人たちは、一度会うと離れたくない。僕が中野から高輪の美家に帰る時、彼女は「駅まで送る」といって高輪まで送りに来てしまう。今度は僕が駅まで送るつもりで出て、結局中野まで送るなんていうバカなことをやっていた。

まったく恋愛中の若者ほどアホな生き物はな

そのうち正月帰省中の彼女が、突如子宮外妊娠で出血、危ういところを手術して助かった。向こうの父親は激怒し、めったに会えなくなってしまう。見舞いに行っても二人で抱きあって泣いた。

やがて僕は卒論にハマり、生まれて初めて学問で我を忘れる体験をした。この時だけは彼女のこと